

INFORMATION

No. 2403-13

報告書変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、下記の項目につきまして、2024年4月1日(月)報告分より、専用報告書の全体的なデザインや記載内容を変更いたしましたので、ご案内申し上げます。

先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒宜しくご了承のほどお願い申し上げます。

謹白

記

■対象検査項目

コード	検査項目名
4459	ABC検診《LA》
4460	ABCD検診《LA》

※報告書の見本については裏面をご参照ください。

※なお、基準値および判定等の変更はございません。

■変更日

2024年 4月 1日(月) 報告分より

株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL 04-2964-2621 FAX 04-2964-6659

URL <http://www.e-musashi.co.jp>

* お問い合わせは当社または担当者までお願いいたします。

ABC(ABCD)検診報告書の主な変更点

- 「ABC検診判報告書」と「ABCD検診報告書」の統一化。
- 「ABC(ABCD)検診判定結果」のA群、B群、C群、D群の各説明文の変更。
- 「ペプシノゲン検査とは・・・」の説明文の変更。
- ABC(ABCD)分類判定対象外(除菌群)の追記。

現ABC検診《LA》、ABCD検診《LA》報告書(チャート図)／B5版サイズ

A B C 検診報告書

施設名 武蔵臨床検査所 カルテNo 1 様 主治医 武蔵 先生
 採取日 2014年09月28日 診療科 内科
 受付日 2014年09月28日 患者名 山野 裕 階
 報告日 2014年10月01日 性別 男 年齢 42歳 検体No 100
 コメント

ペプシノゲン/ヘリコバクター-ピロリの判定結果

検査項目	測定結果	判定	ABCD分類	ペプシノゲン判定領域
ペプシノゲンI	73.1 pg/ml		A	100
ペプシノゲンII	7.9 pg/ml	(-)		50
ペプシノゲンI/II	9.3			10.0
ヘリコバクター-ピロリ抗体	3未満 U/ml	(-)		

A B C 検診判定結果

A群 健康な胃粘膜

健康な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。

B群 少し弱った胃粘膜

少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。一度、内視鏡検査を受けましょう。

C群 弱った胃粘膜

弱った胃粘膜です。胃がんなどの病気になりやすいタイプ。一度、内視鏡検査を受けてください。定期的な内視鏡検査をお勧めします。

ABC検診とは・・・
 ABC分類は「胃の健康度」に応じて検診間隔を設定することができます。A群なら5年に1回の検査、B群であれば精密検査を受診し、問題がなければ2～3年に1回の検査、C、D群ならば精密検査を受診し、問題がなければ1年に1回の検査を実施するという方法です。ただし、「H.pylori」が陽性除菌後の方は、ABC分類対象外となります。

ペプシノゲン検査とは・・・
 「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで、胃粘膜の老化(萎縮)の状態を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクター-ピロリ検査とは・・・
 胃がヘリコバクター-ピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。

▲ 湘武臨床検査所 報告責任者 清水

A B C D 検診報告書

施設名 武蔵臨床検査所 カルテNo 1 様 主治医 武蔵 先生
 採取日 2014年09月28日 診療科 内科
 受付日 2014年09月28日 患者名 山野 裕 階
 報告日 2014年10月01日 性別 男 年齢 42歳 検体No 101
 コメント

ペプシノゲン/ヘリコバクター-ピロリの判定結果

検査項目	測定結果	判定	ABCD分類	ペプシノゲン判定領域
ペプシノゲンI	pg/ml		A	100
ペプシノゲンII	pg/ml			50
ペプシノゲンI/II				10.0
ヘリコバクター-ピロリ抗体	U/ml			

A B C D 検診判定結果

A群 健康な胃粘膜

健康な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。

B群 少し弱った胃粘膜

少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。一度、内視鏡検査を受けましょう。

C群 弱った胃粘膜

弱った胃粘膜です。胃がんなどの病気になりやすいタイプ。一度、内視鏡検査を受けましょう。定期的な内視鏡検査をお勧めします。

D群 かなり弱った胃粘膜

かなり弱った胃粘膜です。胃がんなどの病気になるリスクがあります。必ず内視鏡検査を受けましょう。また、毎年内視鏡検査を受けましょう。

ABCD検診とは・・・
 ABCD分類は「胃の健康度」に応じて検診間隔を設定することができます。A群なら5年に1回の検査、B群であれば精密検査を受診し、問題がなければ2～3年に1回の検査、C、D群ならば精密検査を受診し、問題がなければ1年に1回の検査を実施するという方法です。ただし、「H.pylori」が陽性除菌後の方は、ABC分類対象外となります。

ペプシノゲン検査とは・・・
 「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで、胃粘膜の老化(萎縮)の状態を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクター-ピロリ検査とは・・・
 胃がヘリコバクター-ピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。

▲ 湘武臨床検査所 報告責任者 清水

新ABC検診《LA》、ABCD検診《LA》報告書(チャート図)／B5版サイズ

A B C (A B C D) 検診報告書

施設名 武蔵臨床検査所 カルテNo 0000000000 様 主治医 武蔵 先生
 採取日 2022年05月17日 診療科 診療科
 受付日 2022年05月17日 患者名 山野 裕 階
 報告日 2024年01月24日 性別 男 年齢 54歳 検体No 91
 コメント

ペプシノゲン/ヘリコバクター-ピロリの判定結果

検査項目	測定結果	判定	ABCD分類	ペプシノゲン判定領域
ペプシノゲンI	L 85.6 pg/ml		A	100
ペプシノゲンII	17.3 pg/ml	(-)		50
ペプシノゲンI/II	3.8			10.0
ヘリコバクター-ピロリ抗体	3未満 U/ml	(-)		

A B C (A B C D) 検診判定結果

A群 健康な胃粘膜

お若い健康な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などにより胃にダメージを受ける可能性があります。胃酸過多の可能性があるため、胃酸過多の症状がない限りは、一度は内視鏡検査などの精密検査を受けることが望ましいです。

B群 少し弱った胃粘膜

少し弱った胃粘膜です。胃がんや、十二指腸潰瘍などのリスクがあります。胃がんのリスクを減らすため、定期的な内視鏡検査をお勧めします。一度は内視鏡検査を受けましょう。

C群 弱った胃粘膜

萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除去治療をお勧めします。

D群 かなり弱った胃粘膜

萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。必ず専門医師指導で内視鏡検査などの精密検査を受けてください。

○ペプシノゲン検査とヘリコバクター-ピロリ抗体検査を組み合わせて行うことで「胃の健康度」を調べる事ができます。

表裏(ABC)分類判定対象外(除菌群)
 ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、ABC(ABCD)分類の対象外となりますが、対象外となりますのでご注意ください。除菌の経過に問わず、除菌後1年以上経過後の内視鏡検査を受けましょう。

健康により胃がんになるリスクが低くなりますが、決してゼロになるわけではありせんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

ペプシノゲン検査とは・・・
 「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで、胃粘膜の健康状態(萎縮)を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクター-ピロリ検査とは・・・
 胃がヘリコバクター-ピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。

▲ 湘武臨床検査所 報告責任者 清水